

地球電磁気・地球惑星圏学会

**SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)**

第142号 会報 1993年2月23日

1994年地球惑星科学関連学会合同大会 SGEPSS固有セッションスケジュール

3/20 (SUN)	電離圏 09:30-12:30		大気圏力学 10:30-12:30
	磁気圏(構造及び波動) 14:00-17:00	太陽圏 13:30-16:54 外圏大気関係共同 観測施設連絡会議 18:00-	大気圏化学・放射 13:30-16:54
3/21 (MON)	オーロラ ダイナミクス 09:00-10:12	固体惑星・ダイナモ 09:00-10:36	
	磁気圏電離圏結合 10:30-12:18 (昼休み) 14:00-14:36		惑星大気 11:30-12:30
	ULF波動 14:36-17:12	評議員会 18:30-	
3/22 (TUE)	SGEPSS ポスターセッション 09:00-12:00	STE研究連絡委員会 (新旧委員合同) 12:00-12:45	
	特別講演会 13:00-	総会 16:00-17:30	懇親会 18:00-20:00
3/23 (WED)	太陽風磁気圏相互作用 09:00-10:36	岩石磁気・古地磁気 09:00-12:06	
	磁気圏(シミュレーション及びGEOTAIL) 11:00-12:24 (昼休み) 14:00-17:16	地球内部電磁気学 13:00-16:24	

目 次

<p>1. 第95回総会並びに講演会案内 2</p> <p>2. 日本学術会議第16期会員選出に係わる 会員候補者および推薦人の選挙結果 2</p> <p>3. 第174回運営委員会報告 3</p> <p>4. JGG 編集委員会報告 4</p> <p>5. 訃報 4</p> <p>6. AGU Convocation of Presidents について 4</p> <p>7. 会費の銀行預金口座からの自動引落制度 の実施について 4</p> <p>8. JGG論文奨励賞を受賞して 5</p> <p>9. 国際学術交流事業補助金受領者の報告 6</p>	<p>10. AGU 地磁気古地磁気部門のメールリス トの紹介 7</p> <p>11. 長谷川・永田賞金メダルのデザイン公募 のお知らせ 8</p> <p>12. 合同シンポジウムポストプリントのお知 らせ 8</p> <p>13. 学会宛刊行物・資料等のお知らせ 8</p> <p>14. 国際会議、研究集会のお知らせ。 9</p> <p>15. 「しんかい2000」共同利用公募について 10</p> <p>16. 研究助成金案内 10</p> <p>17. SGEPPS Calender 11</p> <p>18. 日本学術会議だより 12</p>
--	---

1. 第95回総会並びに講演会開催のお知らせ (第5回地球惑星科学関連合同大会)

前号の会報でもお知らせした通り、第95回総会並びに講演会は第5回地球惑星科学関連合同大会として東北大学川内北キャンパスで1994年3月20日(日)～23日(水)に開催されます。プログラムの概要がこのほど定まりましたので、お知らせいたします。固有セッションについては表紙に、全体プログラムについては裏表紙に掲載いたしましたので、ご参照ください。全体プログラムは多少簡略化しました。ご注意ください。

特別講演会は西澤潤一東北大学総長と鳥羽良明東北大学教授からそれぞれ「地球惑星科学と電子工学」、海の風波—この不思議なもの」というタイトルでお話ししていただく予定です。

合同学会会期中に当学会第95回総会が開催されます。学会の財務、JGG誌の将来計画、新しい学会賞の検討等重要事項の審議を予定しております。広く会員の方々のご意見を必要としますのでご出席をお願いいたします。

日時 3月22日 16:00～17:30
場所 J会場 (B101教室)

主な予定議題・審議事項等

1. 平成5年度決算/平成6年度予算
2. 田中館賞授与
3. 学会賞の検討中間報告
4. JGG将来計画
5. 学会開催期間について

なお、参加費等は以下の通りです。

1. 大会参加費	一般 (会員)	1,000円
	一般 (非会員)	2,000円
2. 予稿集	学生・院生	500円
	前納	3,000円
3. プログラム代 (別途購入時)	当日	4,000円
	一般 (前納)	5,000円
4. 懇親会	(後納)	6,000円
	学生・院生 (前納)	3,000円
5. 弁当代 (休日用)	(後納)	4,000円
		800円

2. 日本学術会議第16期会員選出に係わる会員候補者および推薦人の選挙結果

第141号会報で公示されました学術会議会員候補者および同推薦人の選挙は1月14日締め切られ開票されました。開票の結果は以下の通りです。

会員候補者選挙結果 (投票総数 115票)

大家 寛	50票
行武 毅	32票
西田 篤弘	29票
無効	4票

推薦人選挙結果 (投票総数 115票)

西田 篤弘	40票
大家 寛	37票
行武 毅	35票
無効	3票

以上の結果から規定により、当学会から日本学術会議に届ける会員候補者として大家寛、推薦人として西田篤弘、推薦人予備者として行武毅の各会員がそれぞれ決定いたしました。

3. 第174回運営委員会報告

平成6年1月19日第174回運営委員会が、名古屋大学豊田講堂会議室において開催された。主として審議された議事は以下のとおりである。

1. 学会賞について

第94回総会において議決された長谷川・永田賞の改訂・設立をうけて、授与される記念品について審議し、「金杯と金メダル」と決定した。金メダルの図案については広く会員から募集することとした。ついで、学会における賞について意見が交換され、田中館賞が中核層の会員に対する賞として定着してきた現在、従来田中館賞が果たしてきた一面としての若い会員を奨励する役割を持つ賞の新設の必要性が提議され、具体化に向けて検討を続けることとした。

2. 学会開催期間について

現在3日間の学会会期で、3セッションパラレル運用と多数のポスター講演によってプログラムを消化しているが、充分な発表討論の時間がとれず、また関連セッションにすら参加できない現状にあることに関して、学会会期、ポスター講演、総会の運営等にまでわたり議論された。検討案として、会期は3日を原則とし、ポスター講演の一層の有効活用（3分の内容紹介口頭講演を含む等）を計るとともに、講演の多い分野については会期を1日延ばし4日を可とすることにより内容の充実を図る案がだされ、次回運営委員会で結論を出すこととした。

3. 科学研究費の申請について

科学研究費細目「超高層」を他の科研費細目と比した時採択額が近年低下している現状について報告された後、改善策についての意見が交換された。科研費問題WGは、データを収集し具体策を早急に検討することとした。

4. 学会財政について

郵便料金値上げ、学会事務センター経費値上げ等に加えて、JGG誌の学会負担分の値上げ（実質100万円支出増）が出版社側からだされたことにより、学会財政の再見直しが迫られ、会計担当の原案にもとづいて議論された。その結果、特にJ

GG誌の将来計画、購読制化、さらにJGG誌が関連学会と協同編集に入るJGG編集委員会方針と強く関連することから、以下の検討案が出された。

1)向こう3年間は会費の値上げは見合わせる。

2)3年間に限りJGG誌発展事業費（180万円／年）を創出し、JGG活発化による投稿数の増加がもたらす赤字の補填、補助（出版社と学会の間の覚書き追補事項によるに）等の当てることとして、JGG誌の新しい発展を支援する。

3)経常経費の赤字およびJGG発展事業費の財源は、基金からの取り込み（年間120万円）によるものとする。

4)海外会員会費については、円建てカードによる支払い、講演会プログラムの英語版等を検討したうえで会費の値上げをはかる。

この基本案にもとづいて次回運営委員会でさらに検討を進めることとした。

4. JGG将来計画について

JGG拡大編集委員会の経過が報告された後、関連学会との協同編集に関して、関連学会への呼掛け、購読料の扱い、誌名変更等について意見が交換された。いずれにしてもこれからの3年間でJGG誌発展を左右するので会員の積極的な投稿が望まれる。これらの意見、および新設されるJGG発展事業費をバネに3年後新しく発展した形のスタートを望む運営委員会の意向を次回のJGG編集委員会に反映していくこととした。

5. 第142号会報の発行について

第142号会報の編集計画が諮られ了承された。

6. 新入会員の承認

申請のあった5件の入会申込について審査し承認された。

7. その他

日本旧ソ連学術交流事業及び同募金活動について本学会の参画経過が報告された。また、日本学会議16期会員の会員候補者及び同推薦人の選挙結果が報告・確認された。

4. JGG 編集委員会報告

編集委員長 河野 長

昨年の会報 139号で、JGG誌の発展の方向を検討するために“JGG将来検討委員会”が設置されたこと、およびなぜそのような検討が必要になったのかという背景について報告した。それ以来すでに1年近くがたっており、委員会における検討の結果やその後の発展について新たに報告したい。

将来検討委員会は1993年2月26日および5月14日の2回開催された。第1回では、編集委員会側からJGG誌の現状についてとこれまで編集委員会で数回にわたって検討した内容について説明があった。その後、2回の委員会で合計約6時間をかけてJGG誌の抱える諸問題について討議し、また今後どのようにして発展をはかるかを検討した。以下に出された意見にどのようなものがあったかを示す。

1. JGGの論文内訳（編集委員会説明）

10年間の全論文数は737、総ページ数は11,372であり、1年あたり75編程度。

著者の分布を見ると、solidでは国内194、国外220と均衡しているが、upperでは国内217、国外106とやや偏りが見られる。

普通号に載った論文481編に対し特集号の論文が256編あり、特集号なしには年間1,000ページ以上を維持できない。

レギュラーの投稿論文が10年間にわたって1年あたり50編程度と全く増加しておらず、SGEPSSだけでは雑誌の規模を支えきれない。

2. 国際誌の必要性について

国際的なジャーナルは是非必要である。JGGはその方向で充実の芽が出たところだ。

JGRがあれば良いというのでは駄目。スペース・サイエンスはアメリカが先行したが、日本も追いあげて国際レベルに達した。雑誌も米欧とならんで日本がinternationalなものを出す必要がある。

自前の雑誌を持つことは、広い意味で研究活動の重要な一部である。

ロケットや衛星などの最初の成果を出す場として日本の雑誌が必要だ。しかしその後の個人ベースの論文はJGRに流れる傾向がある。

3. JGGの現状についての考え方

JGGの対象領域は惑星も含み非常に広いはずである。しかしそのような論文を投稿する人は少なく、領域は現実には広がっていない。これは学会を限っていることからきた問題ではないか。他学会の人が自分達の雑誌と考えられるような体制に移る必要がある。

JGGはこれまで3回拡大の努力をした（サブタイトル、隔月刊→月刊、論文賞の設定）。にもかかわらず論文数等に変化がなかったのは、やはり1学会では無理ということではないか。

サーキュレーションが悪い→よい論文が少ない→サーキュレーションが悪いという悪循環に陥っている。これを変えるには相当ドラスティックな変革が必要である。

4. 対象分野・領域について

JGGの対象を広げるとJGRの小型になるというのは正しくない。分野を広げても特徴を持たせることはできる。

論文を投稿する場合に考えるのは引用数ばかりではない。引用が少なくても雑誌の特徴で選ぶこともある。Geophys. J. Int. はそういった特徴を持った総合誌の例である。

間口が広がりすぎるのは危険がある。惑星ぐらいだけに絞る方が着実で、しかも惑星側の人がJGGを支えることに熱意を持つ。

5. パートナーの選び方について

アクティビティの高い学会（たとえば惑星）だけと組んで、少しずつ範囲を広げその範囲で評価を高めて行くのが最も発展性がある。

そのやり方では惑星科学会は乗れない。

惑星の会員は400～500人の規模だが、大半は宇宙化学の関連でSGEPSS関連の人は1割ほど、また一般に出身（地震、化学、SGEPSS）により雰囲気異なる。

中心に基盤となる2学会ぐらいで始め、その後周辺部を含めることを検討するのがよい。

地球科学関係の学会はいずれも弱小で、欧文誌については同じような問題を持っている。その中ではJGGは評判が高いがそれでも自学会だけでは無理。従って今JGG誌を中核にするよう各学会へ働きかけて行くべ

きではないか。その話合いの過程で惑星を取込むのがよい。

日本の地球科学の中で地震のトップの人達の實力は大きい。これらも含められる範囲に呼びかけるべきだ。

6. その他の問題

日本が科学において国際貢献することの中に国際誌の発行が含まれている。金を出さずだけでは駄目である。

今後購読料を取る方向へ行くとしても文部省の支援は必要。単に名前を変えるだけなら問題ないとのことだったが、いくつかの学会の共同編集といった条件については文部省の意向を確認しておく必要がある。

国内外とも会員が増加することは出版側の財政を良くすることにならない現在の仕組みは検討する必要がある。

以上の議論をふまえて第2回の委員会で以下の2つの具体的な改革案が提案された。

惑星科学会に、2学会が中心になってJGGを変える案についての検討を呼びかける。(深尾案)

3年間を試験期間として、その間はSGEPSSが中心となった編集をするということで他学会(連合学会参加ぐらいの範囲)に呼びかける。3年間はSGEPSS会員は購読料を優遇されるが、その後は他学会員と同一条件にする。その間他学会から有力会員を編集委員に入れることでよい論文を集める。3年やってうまく行かないなら、JGGはSGEPSSへ戻す。(本蔵案)

この2提案について議論し、各委員の意見を聞いたところ、本蔵案のように多くの関係学会に呼びかけることから始めるのがよいとするものが大多数であった。その結果、以下の結論を本委員会の合意事項として会長に報告することを確認した。

JPEとの合併の可能性は考慮しない(JGGを中心としてやる方策を考える)。

JGGはSGEPSSだけで支えるのは無理があり、この体制のままでは将来の発展も難しい。

従って他学会に呼びかけて基盤を広げる必要がある。この時呼びかける相手は惑星科学会だけでなく、関連学会全体とする方がよい。

以上の結論を「中間答申」という形でまとめ、大家会長に提出する。

この検討委員会の結論を運営委員会において討議していただいたうえで、大家会長から関連学会会長宛に呼びかけの文章を送っていただく。

以上で委員会での検討を終り、6月3日付けで大家学会会長宛に答申が出された。以下にその答申の主文のみを示す。

学会誌(JGG)の発展のために

本委員会ではJGG誌の現状につき検討し、今後の発展のために可能な方策について討議した結果次の結論を得た。

JGG誌の現在の規模(年間12回刊行、約1100ページ、約75論文)は本学会のみによっては維持できていない(不足分は特集号によって補っている)。

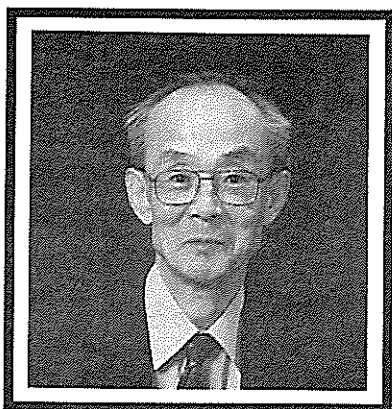
上記の状態は、JGGを拡大するための様々な努力(誌名へサブタイトルの追加、月刊化、論文賞の設定など)にもかかわらず、最近10年間全く好転していない。

従ってJGGの今後の発展のためには、他の学会とも協調して対象領域を拡大し、財政的基盤を安定化する必要がある。この場合、特定の学会に限るのではなく、地球惑星科学連合学会の開催に加わっている学会に広く呼びかけることが望ましい。

このように他の学会と協調してJGGの発展をはかる場合でも、少なくとも当初は本学会がイニシアチブを持つべきである。このために実行可能な方法の一案としては、軌道に乗るまでの3年間はSGEPSSが中心となって編集を行い、他の学会からは編集委員に個人として入ってもらおうという形で動かす。購読料についても3年間はSGEPSS会員は優遇されるがその後は同一にする、などが考えられる。

このような改革を企てる場合、雑誌名の変更や発行形態の変化(例:SGEPSSの刊行物からいくつかの学会の共同編集へ)などが避けられないであろうが、その際にも文部省の助成金の継続など、現在のJGG誌の恵まれている点が不利な変更を受けないよう十分留意すべきであることは当然である。

5. 訃報 大津仁助 会員（名古屋大学名誉教授）



大津仁助会員（名古屋大学名誉教授）は去る平成6年1月18日急性腎不全のため逝去されました。享年70才。

同氏は昭和24年3月東京大学理学部物理学科を卒業され、同年11月名古屋大学空電研究所助手に採用され、ついで、昭和37年に助教授、昭和51年には教授に昇任され、研究所の発展に尽力されました。同氏は空電の波形及び伝搬の研究を手がけられ、空電波形の解析により電離層下部の性質を解明するとともに、空電源位置決定の

自動化のため電子計算機処理に新しい方式を開発し、空電の伝

搬研究、気象現象との関連研究等に大きく貢献されました。ついで、低緯度ホイストラの受信に成功し、その特性が極めてピュアトーンであることを示すとともに、低周波数領域での分散特性の解析から磁気圏内のプロトンの存在を初めて実証されました。また、低緯度VLF電磁放射の受信にも成功し、VLF放射と地磁気擾乱との高い相関性を見だし、VLF放射の発生開始域が地球磁気圏尾部より流入する電子群の東廻りのドリフト運動と関連していることを世界で初めて示されました。さらに、VLF放射の発生機構について、電子流によるホイストラモード波の励起の詳細な数値計算により、その励起条件を明らかにされました。昭和62年3月に空電研究所を定年退官されたのちは、悠々自適な環境のもとで、従来の研究の集大成とともに、学生時代からクリスチャンであられた同氏にとっての永遠のテーマである、宗教と科学との整合についての考察に専念されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（名古屋大学太陽地球環境研究所 田中義人）

6. AGU Convocation of Presidents について

AGUでは、1994年5月AGUの75周年を記念して、各国の関連学会の会長による集会(Convocation of Presidents)を持ちます。このほど当学会の大家会長宛に正式の招待状がAGU Presidentから届きました。会の趣意は、各国の関連分野の学

会の会員のAGUにたいする見方、要望や期待をくみ取り、また場合によって関連学会が協力して新しい研究領域を探る可能性を語る、ことを目的とするというものです。当学会としては会長から参加する旨の返事をしております。

7. 会費の銀行預金口座からの自動引落制度の実施について

昨年末以来会員の皆様には学会事務センターを通じて、会費の自動引落についてご案内もうしあげております。1月15日現在で約140名の会員の方々께서すでに手続きをされ順調なすべりだしとなっております。会費の自動引落制度の採用は、現在困難な状況を迎えつつある学会財政の強化に大きく貢献すると考えられますので、より一層のご協力をあらためてお願いもうしあげます。

これからお申し込みいただきますと、平成6年4月25日に平成6年度分の会費が指定の銀行口座より自

動引落される予定ですが、あるいは手続きが間に合わず来年度になるかもしれません。未納分の会費がある場合には1回目に同時に引き落とされます。また、自動引落制度への初回登録料(250円)と、毎年の引落手数料(200円)は、恐れ入りますが各自でご負担いただけるようお願いいたします。より詳しいことは、事務センターより送られました資料をご参照ください。

（運営委員会会計担当）

8. JGG論文奨励賞を受賞して

徳丸宗利（郵政省通信総合研究所稚内電波観測所）

このたびJGG論文奨励賞を受賞しましたことは私にとって全く思いがけない事で、大変うれしく思っています。このような栄誉に与れたのは、共に研究を行ってきた方々（特にプロジェクトマネージャの森室長）の協力、また研究結果を議論して頂いた方々からの有益なご助言やご指導があったからこそであり、ここで深く感謝したいと思います。

受賞の対象となった論文は、電波星からの電波が太陽風を通過してくる時に発生する惑星間空間シンチレーション（IPS）現象を地上で観測し、その結果から太陽の近傍で太陽風がどのように加速されているかについて議論したものでした。IPS観測は太陽風研究の手段として従来から用いられていますが（名大STE研など）、太陽風の加速を研究しようとするときマイクロ波帯を受信できる大型の電波望遠鏡が必要となります。そのような施設は数が少なく、また有ったとしてもIPS観測のために使えない場合が多いので、これまで太陽風加速域の観測は充分されていませんでした。

今回、私たちが幸運だったのは、鹿島宇宙通信センター（通信総研）にある34m電波望遠鏡をIPS観測に利用できたことでした。この電波望遠鏡は昭和62年度にVLBI実験を主目的として建設されたもので、その当時、鹿島で勤務していた私は、34m鏡の建設チームの一員として受信系システムの仕様を決める作業を担当しました。理学部出身の私にとって、この作業は一から勉強ということが多かったのですが、これが完成した後にできるであろう様々なサイエンスに想いを膨らませながら徹夜したことを思い出します。私は人事異動のため34m鏡が完成する前に鹿島を離れましたが、関係の方々のご理解・ご協力を得て34m鏡を使ったIPS観測に参加することができ、鹿島で抱いていた想いを果たせることができました。

ここで通信総研というと磐石な体制の基で観測が行われていることを想像される方がおられるかも知れませんが、私たちの研究の場合、研究に参加しているのは様々な部署から集

まった人たちですし、34m鏡といった大型施設を使っているものの、観測装置やソフトウェアのほとんどは自作、観測オペレータも自分達でやるというよう

に、かなりごちんまりとした体制です。そうした状況で手探りしながら、平成元年に初の観測データを取得することができました。34m鏡の性能の高さに加え、観測を開始したのが丁度、太陽活動が非常に盛んな時期にあっていたという特殊性もあって、取得したデータには太陽風加速の姿を明瞭に見る事ができました。その結果に気をよくして、論文にまとめようとしていた矢先に、私はまた人事異動で稚内へいくことになりました。それまでいた平磯なら鹿島へ車でも通えたのですが、稚内となるとそうもいかないもので、これで研究の締めくくりになればと思って書いたのが本論文でした（結局、稚内へきてからも研究は続けてやっています）。

このような経緯から、本論文でJGG論文奨励賞をいただいたのは、私にとって本当に感慨深いものがあります。言うまでもなく、私たちのIPS観測で分かったことはまだまだ僅かであり、太陽風加速のほんの側面を垣間みたにすぎません。今回の受賞を励みにして、さらに研究を継続し、太陽風加速の謎に迫って行きたいと思っています。また、今回の受賞によって通信総研の中の異なる分野の方からも私たちの研究を知ってもらうことができ、今後、研究を進めてゆく上で大きなプラスになったと思います。最後に、副賞のお金は普段なかなか行けない海外の研究会に参加費として使い、大いに私たちの研究成果を紹介して来ようと思っています。



9. 国際学術交流事業補助金受領者の報告

松岡彩子 (宇宙科学研究所)

学会と言えば15分から40分位の口頭発表と2~3時間のポスターセッションとで構成されることが多い中で、Geospace Environment Modeling Workshops (GEM) のプログラムはかなり特殊であると思う。5日間の日程の内3日間は地球磁気圏のBoundary Layer, あと2日間はSubstormを中心としたMagnetotailの現象をテーマとし、それらを構成するのは1時間にわたるレビュー講演、数分のコメント(たいてい数分では終わらないが)、自由討論のみならず、着眼点や研究の手法に従い幾つかのワーキング・グループに別れた講演やディスカッションが日に1、2度持たれる。その他Boundary Layerのセッションではポスターセッションも設けられている。

1年前に初めてGEMに出席し、活発なディスカッションやBoundary Layerの物理を真剣に考えている人が数十人集まることが出来るアメリカの研究者層の厚さに感銘を受けた。一方私自身の発表はまだ十分に練って無く、なかなかディスカッションの中に入って行けなかったのが残念であった。今回は国際学術交流の補助金を頂き、6月28日から行なわれた1993年のGEMに再び出席することが出来た。この機会を与えて下さった学会の関係者の方々には心より感謝したい。昨年の反省をもとに準備を整えて臨んだ。

開催されたのは1年前と同じくコロラド州デンバーから西へ40分程飛んだSnowmassという所であった。高度は2500mを越え、雪をかぶった4000m級の山々に囲まれたスキーで有名なりゾート地である。ホテルのすぐ裏の山にはリフトがあり、近くのモールにあるお店の半数はスポーツ用品店だった。(私が行ったのは夏なので当然スキーは出来なかった。)ホテルのバスの運転手さんに「日本には屋内スキー場があるそうですね」と言われた時には驚いた。

私の発表した内容は北向きIMF時の「あけぼの」衛星による極域電場観測を中心としたもので、一年分のデータを用いた統計解析とDawn-Duskのポテンシャル構造についてであった。北向きIMF時の極域現象は現在多くの人の関心を引いているので賛否両論いろいろな討論が出来るものと期待して行った。Contributed Paperはポスターのみであり、2日間にわたり夕食後の7時半から10時までに行なわれた。「自分のポスターの前を通った人は全部つ

かまえる」位の気構えで臨んだので、多くの人に聞いてもらうことが出来、1日目は11時近くまで発表を続けた。予期していたのと違ったのは大半のコメントが当たりさわりのない肯定的なものだったことで、この先研究を進め

ていく上でのステップアップにつながるような意見を聞くことはなかなか出来なかった。私の発表にまだオリジナリティーと呼べるものが少なかったせいもあると思う。しかし、もう一度聞きに来てよく考えると奇妙ですわねと言ったり、昼間の休み時間にポスターを見て興味を持ったのか、わざわざやって来て説明してほしいと言った人も数人いたことから、確かにアメリカは研究者の層が厚いけれどもその中は分化していて、自分のテーマに直接関連しないことには立ち入ったコメントが出来にくくなっているのかもしれないと思った。

レビュー講演や自由討論は、今までに何が解り現在何が問題になっているのか、そしてそれらの問題の捉え方が人によってどう違うのか、概要をつかむ絶好の場であった。英語を聞いたり話したりする力が少しはましになった分、全体としての収穫は1年前以上であった。第一線の研究者達の生の声を聞くことが出来るだけでもこのミーティングに参加する意義はあったと思う。またGEMでは地上の磁力計やレーダー、人工衛星の同時データを比較研究するためのキャンペーン期間を設けている。今回の参加に先立って、キャンペーン期間の研究をしている人のリクエストに従って「あけぼの」のLEP・MGF・EFDのデータを送ってあった。その結果も聞くことが出来、比較データの種類が豊富なので大変面白かった。ただ相互に合わない例もあり、多くの宿題を日本へ持ち帰ることになった。

百人程度のワークショップには大きな国際学会とはひと味違った楽しさがある。これからこの補助金制度を利用しようとする方に、そのような参加のしかたも是非ともおすすめしたい。



10. AGU 地磁気古地磁気部門のメールリストの紹介

AGU の地磁気古地磁気(GP)部門で昨年より二つのメールリストが運用されています。メールリストというのは e-mail の転送機能を使って、参加者の間のパブリックな議論を可能にするシステムです。参加法などはGP部門セクレタリのSue

Beske-Diehl さんから、ご寄稿いただいたものを以下に掲載いたしますので、ご参照ください。今後、本学会に関連したメールリストは積極的に広報していきたいと考えておりますので、ほかにもありましたら、会報担当までお知らせください。

New Geomagnetism and Paleomagnetism E-mail Network Established

The Geomagnetism and Paleomagnetism (GP) Section of the American Geophysical Union has initiated two new e-mail lists to enhance worldwide communication in the GP community. News items, announcements, and scientific discussions will be sent out to the those with their names on the e-mail lists (subscribers). Anyone with an interest in electromagnetism, geomagnetism and paleomagnetism can be included in the lists. There is no cost to subscribe.

Two e-mail lists are currently active. One, named "elmag" is for those scientists interested in topics and activities in electromagnetism. The other, named "gpmag" is for those interested in geomagnetism and paleomagnetism. A person can belong to both of these e-mail lists, however, they may receive two copies of some messages. The e-mail listmanager will continue to assess whether two e-mail lists are necessary.

The following is a general description of the guidelines and operation of the e-mail lists.

- 1) You are welcome to submit timely announcements, news items, and scientific problems or questions to the e-mail lists.
- 2) If you respond to an item carried over an e-mail list, send the response to the PERSON WHO SUBMITTED THE ITEM.
- 3) The person who originally submitted the topic is responsible for writing a summary of the responses and sending the summary to the appropriate e-mail list.
- 4) Upon recommendation from experienced e-mail list users, the e-mail list manager will be monitoring all items before they are sent out to the e-mail lists. This is to intercept advertisements and junk mail. The e-mail list manager will not edit messages.

To send mail to an e-mail list:

For GP e-mail list simply address mail
to: gpmag@mtu.edu

For electromagnetics e-mail list mail
to: elmag@mtu.edu

To add your name to an e-mail list (subscribe):

For GP e-mail list, address request

to: gpmag-request@mtu.edu

At Subject: field type subscribe.

Example - Subject:subscribe

Text: Add interests, address and phone number. This additional information may be used later.

For Electromagnetics e-mail list, address request

to: elmag-request@mtu.edu

At Subject: field type subscribe.

Example - Subject:subscribe

Text: Add interests, address and phone number. This additional information may be used later.

To unsubscribe to an e-mail list:

For GP e-mail list, address the request

to: gpmag-request@mtu.edu

At Subject: field type unsubscribe.

Example - Subject:unsubscribe

Text: does not matter.

For Electromagnetics e-mail list, address request

to: elmag-request@mtu.edu

At subject: field type unsubscribe.

Example - Subject:unsubscribe

To change your e-mail address:

Unsubscribe first (this can be done from the new address) and then subscribe using you new e-mail address.

A reminder: Always send subscribe and unsubscribe requests to the request address of a mailing list.

The Executive Committee of the GP Section of AGU hopes that these e-mail lists will increase communication between GP members. Please feel free to use the lists. Address any problems, suggestions, complaints or comments to the current e-mail list manager, Sue Beske-Diehl at sbeske-d@mtu.edu.

Sue Beske-Diehl, Secretary
Geomagnetism and Paleomagnetism Section of AGU

1.1. 長谷川・永田賞金メダルのデザイン公募のお知らせ

先の第94回総会において長谷川杯を長谷川・永田賞と改訂・設立することが議決されました。その際、授与する記念品については運営委員会での審議に付託されましたが、これを受けまして平成6年1月19日に開催された運営委員会で審議した結果、記念品は「金メダル及び金杯」とすることに決定されました。金杯につきましては従来の形を踏襲いたしますが、金メダルについてはそのデザインを学会員から広く公募して決めることと

いたしました。みなさまふるってご応募ください。採用図案は秋期学会の運営委員会で決定する予定です。

応募締切日 平成6年9月末日

応募先 〒442豊川市穂の原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
湯元清文運営委員宛
Tel 05338-6-3154 ext.343
Fax 05338-9-1539

1.2. 合同シンポジウムポストプリントのお知らせ

1993年地球惑星科学関連学会合同シンポジウム「生物圏から大気圏への化学物質の移動」の内容が印刷されました。「生物圏から大気圏への化学物質の移動」というタイトルのもとで、SGEPSSおよび気象学会の共催で1993年の地球惑星科学関連学会で合同シンポジウムがもたれたことは、ご記憶の方も多いと思います。興味深い講演と大変熱心な討論でこのシンポジウムは大きな成功を収めました。これだけで終わりにするには惜しい内容で広く関係者に関心を持ってもらうべく、気象

学会側の担当者と相談して、シンポジウムの内容を「気象研究ノート」に掲載することにしました。このたび「気象研究ノート、第181号、生物圏から大気圏への化学物質の移動」として、日本気象学会から発行されております。「地球環境生成における生命の役割」からはじまり、「磁気圏の酸素」まで興味ある話題が多数収録されております。問い合わせは、日本気象学会（東京都千代田区大手町1-3-4）まで。

(名古屋大学太陽地球環境研究所 岩坂安信)

1.3. 学会宛刊行物・資料等のお知らせ

学会宛に以下の刊行物、報告書、資料が届いております。ご利用を希望の方は事務局までご連絡下さい。

1. 日本学術会議月報 日本学術会議
1993年第9号,10号,11号,12
2. 測地学会誌 日本測地学会
1993年 39巻 第2号 第3号
3. 天文月報 日本天文学会
1993 Vol.86, No.5
4. カオス 講習会テキスト 日本物理学会
5. 宇宙科学技術連合講演会講演集
6. 宇宙開発事業団
TR-IAロケット微小重力実験
2号機実験成果報告
宇宙開発事業団特別報告
NASDA-SPP-930002,3

宇宙開発事業団技術報告

NASDA-TMR-930007,8,9,11

宇宙開発事業団契約報告

NASDA-CNT-930019-930045

宇宙開発事業団特別報告

NASDA-CNT-940001-940025

7. NEC RESEARCH & DEVELOPMENT

Vol.34 No.2,3,4 日本電気

8. 井上科学振興団平成4年度事業報告
井上科学振興団

9. 第33回事業報告書(平成4年度)
東レ科学振興会

10. 第19回事業報告書(平成4年度)
日産科学振興財団

14. 国際会議、研究集会のお知らせ。

●第8回太陽地球系物理学 (STP) 国際会議

日時：平成6年6月5日-10日

会場：仙台国際センター

主催：国際太陽地球系物理学・科学委員会 (SCOSTEP) および東北大学理学部

会議の趣意及び内容

国際科学連合(ICSU)傘下の国際太陽地球系物理学科学委員会(SCOSTEP)は4年に一度、全世界にわたって太陽地球系物理学の研究における進歩を総括するためSTP(太陽地球系物理学)シンポジウムを開催してきましたが、1994年には我国がその第8回STPシンポジウムの開催を引き受けることになりました。SCOSTEPでは、1990~1997年にわたり、太陽地球系エネルギー国際協同研究(STEP)プロジェクトを実施していますが、仙台における第8回STP国際シンポジウムでは、このSTEPのプロジェクト研究に焦点をおき、その前半期(1990~1993)の研究成果を検討し、後半期に向けて、その活動を一層有効にするため、国際的に広くSTEP参加者が集い研究成果報告、今後の共同研究推進の協議を行うことに焦点をおきます。

会議では総括的な Tutorial Invited Talk,及び Plenary Invited Talk を総会形式でもつと共に、1)太陽活動と惑星間空間、2)惑星間空間プラズマと磁気圏相互作用、3)磁気圏及び電離圏相互作用、4)電離圏・熱圏結合系、5)中層大気上下結合、6)太陽活動地球環境並びに人間生活への影響、7)STPにおけるモデリングとシミュレーション、および8)STPデータ並びに情報交換システム、の8つのテーマについて Disciplinary Invited Talk とオーラル及びポスターからなる Contributed Papers で構成される会議で討議します。

問い合わせ先：

〒980 仙台市青葉区荒巻青葉

東北大学理学部宇宙地球物理学科

大家 寛

TEL (022)222-1800(ext 3332) FAX (022)060-6332

●The Second SOLTIP Symposium

日時：平成6年6月11日-17日

会場：茨城県那珂湊市

SOLTIP(Solar connection of Transient Interplanetary Processes)はSTEPの一環として、惑星間空間を伝わる衝撃波などの突発的現象と太陽活

動との関連を、観測、観測データ解析、理論・シミュレーションの各分野から研究する国際共同研究事業(代表者：M. Dryer, Space Environment Laboratory)です。このシンポジウムでは、太陽、太陽風、宇宙線、太陽風・磁気圏結合などの研究分野における最新の研究成果の発表に加えて、下記の3特定解析期間において観測された太陽惑星間空間現象の総合解析を行います。

SOLTIP Interval No. 1 1991年3月22日-27日

SOLTIP Interval No. 2 1991年6月1日-17日

SOLTIP Interval No. 3 1992年5月4日-10日

問い合わせ先：

〒310 水戸市文京2-1-1

茨城大学理学部地球科学科

渡辺 堯

TEL (0292) 26-1621 FAX (0292) 27-8532

●宇宙プラズマ中の非線形波動とカオスに関する国際シンポジウム (International workshop on nonlinear waves and chaos in space plasmas)

日時：平成6年6月13日-16日

会場：京都大学超高層電波研究センター

オーガナイザー：

松本 紘 (開催責任者)

(京都大学超高層電波研究センター)

B. Buti(National Physical Laboratory)

B. Tsurutani(Jet Propulsion Laboratory)

羽田 亨 (九州大学教養部物理学教室)

宇宙空間プラズマ中に見られる非線形波動とカオスに関連する現象を、プラズマ物理理論および数値シミュレーション、人工衛星観測および室内実験、数理物理学(非線形物理学)のそれぞれの立場から考察し、研究連絡を行ないます。議論する主要なトピックスとしては、宇宙空間中のプラズマ波動の波動間相互作用、非線形波動と粒子の相互作用、プラズマ中のカオス的素過程、新しい手法によるプラズマ波動の解析などが挙げられます。参加御希望の方は、下記の宛先まで御連絡下さい。

〒810 福岡市中央区六本松4-2-1

九州大学教養部物理学教室

羽田 亨

fax : 092-731-8745

e-mail: d75080a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

15. 「しんかい2000」共同利用公募について

東京大学海洋研究所では平成6年度海洋科学技術センター所属潜水調査船「しんかい2000」の共同利用を公募しています。平成6年度の対象海域は

南西諸島海域 (9～10月、11～12月)
伊豆・小笠原諸島海域 (4月)
日本海、三陸沖、奥尻 (8～9月)
駿河湾 (4月、7月、9～11月)
南海トラフ (9～11月)
相模湾 (4月、7月、11～12月)

を予定しています。申し込み資格は国・公・私立大学及び国立研究期間の研究者、ただし、大学院生は「しんかい2000」には乗船できません。

申し込みの詳細は

東京大学海洋研究所総務課共同利用掛
〒164 東京都中野区南台 1-15-1
Tel (03)5351-6354, 6355
Fax(03)3375-6716

まで、また、潜水調査船及び母船等の詳細については

海洋科学技術センター運航部運航課
〒237 神奈川県横須賀市夏島町
Tel (0468)67-5522 ダイヤルイン
Fax (0468)66-4600

までお問い合わせください。申込期限は平成6年2月28日(月)で、採否は平成6年3月に決定する予定です。

16. 研究助成金案内(下記助成金のいずれについても詳しくは総務まで。)

●山田科学振興財団(平成6年度)

〆切1994年3月31日

自然科学の基礎研究に対して研究費を援助。援助額は1件当たり300～700万円、総額5,000万円、援助総件数は10件程度。学会からの推薦及び本財団関係者からの個人推薦の中から選考。使用期間は2年間。

●神奈川科学技術アカデミー(平成6年度)

研究助成 〆切1994年2月28日

主として神奈川県在住、在勤(近県を含む)の若手研究者(概ね40歳以下)による先端的科学技術分野(自然科学系)の創造的基礎研究に対して助成する。平成6年度は第一段階50万円まで、30件程度を公募する。結果に応じて後年度には250万円、500万円の第二段階、第三段階へ進むことができる。

集会助成

〆切1994年2月28日(前期) 7月29日(後期)
平成6年度に神奈川県内で開催される研究集会を

助成する。金額は国内研究集会は100万円以内、国際研究集会は200万円以内。

●三菱財団(平成6年度)

〆切1994年3月9日

日本国内で活動する研究者の原則として個人研究を助成する。本学会員に関係の深い重点対象分野に「宇宙・地球規模の環境に関する基礎研究」というタイトルがある。助成金額は総額3億円一件あたり2000万円以内で、30件程度の採択を予定している。

●日産財団

日産科学振興財団は研究助成のプログラムを改訂しました。その骨子は、総合研究(人間-自然環境系、人間-人工環境系)、一般研究・奨励研究(境界領域、地球環境、新機能材料、生命現象)及び海外共同研究(人間-自然系、都市環境)の助成区分にあらためたことです。詳細については平成6年度の募集要項(4月配布)を入手し次第会報に掲示いたしますが、あらかじめお知らせいたします。

SGEPSS Calender

1994年

- 2月28日 Western Pacific Geophysical Meeting (WPGM)
Extended Abstract Deadline
- 2月2日～4日 京都大学防災研究所・研究発表講演会
京都大学宇治キャンパス防災研究所
- 2月7日～8日 C A (Conductivity Anomaly) 研究会
東京大学・地震研究所
- 3月17日 地球環境のための中層大気観測国際ワークショップ
東京都港区 三田共用会議所
- 3月19日 運営委員会
- 3月20日～23日 1994地球惑星科学関連学会合同大会
- 3月22日 評議員会
- 5月20日～22日 AGU Convocation of Presidents
- 5月23日～27日 AGU Spring Meeting
- 6月5日～10日 第8回太陽地球系物理学(STP)国際会議
仙台 国際センター
- 6月11日～17日 The Second SOLTIP Symposium
茨城県那珂湊市「ホテル ニュー白亜紀」
- 6月13日～16日 国際ワークショップ Nonlinear Waves and Chaos in Space Plasmas
京都大学超高層電波研究センター
- 7月11日～21日 C O S P A R
Hamburg (Germany)
- 7月16日～22日 Shoemaker-Levy 9 彗星の木星衝突
- 7月25日～29日 West Pacific Geophysical Meeting
香港
- 8月8日～12日 The 4th SEDI (Study of the Earth's Deep Interior) symposium
Whistler Mountain, Canada.

先号よりSGEPSS会報にSGEPSSカレンダーとして関係する国内外の学会、研究会、委員会、締切等を掲載する欄をもうけました。むこう6カ月程度の予定を掲載していく予定です。掲載すべき事項がございましたら会報担当の渋谷までお知らせください。

地球電磁気・地球惑星圏学会

会長 大家 寛 総務 森岡 昭

〒980 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学理学部宇宙地球物理学教室 022-222-1800 ex.3347 Fax 262-6332

庶務 渋谷秀敏(会報担当)・浜野洋三

〒593 堺市学園町1-1 大阪府立大学総合科学部地学教室

0722-52-1161 ex 3735 Fax 55-2981 e-mail shibuya@cias.osakafu-u.ac.jp

運営委員会 〒113東京都文京区本駒込5丁目16番9号学会センターC21(財)日本学会事務センター気付

03-5814-5810 会員業務(入退会,住所変更等,会費,会誌)

03-5814-5801 学会業務(庶務,窓口,渉外)

03-5814-5820 ファクシミリ

入会申し込み、国際学術交流事業への応募は運営委員会宛、田中館賞推薦は会長宛、研究助成金案内は総務宛、会報への投稿は担当庶務宛ご連絡ください。会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿をお待ちしています。

アジア学術会議～科学者フォーラム～開催

平成5年12月 日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは、10月20日から22日まで開催された第117回総会の概要、同総会で採択された「生物遺伝資源レポジトリ及び細胞・DNAレポジトリの整備について(要望)」等、11月15日から18日まで開催されたアジア学術会議～科学者フォーラム～についてお知らせします。

日本学術会議第117回総会報告

日本学術会議第117回総会(第15期・第6回)が、10月20日～22日の3日間にわたって開催されました。

総会の初日(20日)の午前は、会長からの前回総会以降の経過報告に続いて、各部、各委員会等の報告(学術分野における国際貢献、アジア学術会議の開催など214件)が行われました。次いで、今回総会に提案される案件の「生物遺伝資源レポジトリ及び細胞・DNAレポジトリの整備について(要望)」について、提案説明が行われた後、質疑応答が行われました。

午後からは、各部会が開催され、上記提案案件の審議及び各部会個別案件について審議が行われました。

総会2日目(21日)の午前は、同提案案件についての討論・採決が行われ、採択されました。これは、生物遺伝資源レポジトリ整備拡大の必要性の増大に対処するため、現在ある個別系統保存施設の拡充、総合調整機構の設置などを要望するとともに、細胞・DNAレポジトリの整備のため、各省庁傘下の施設のネットワーク体制を構築し全体の活動を総合調整する、チェック機構を付加した細胞・DNAレポジトリセンターの設置など、政府関係機関において取るべき具体的措置を要望するものです。

なお、本件を要望するに当たり会長談話が併せて発表されました。

同案件の採択に引き続き、昼休みを挟んで午後にかけて、現在、常置委員会及び特別委員会で審議されている懸案事項について、自由討論が行われました。この中で、「人の死と医療の在り方」を検討している死と医療特別委員会がまとめた「尊厳死」についての考え方を総会に報告し、それについて活発な議論が展開され、マスコミにも報道されました。

同委員会では、今回の議論を踏まえ、更に検討を深め、来年5月の総会に報告として提案するため準備を進めています。

総会3日目(22日)は、午前は、各常置委員会及び国際対応委員会、午後は各特別委員会がそれぞれ開催されました。

生物遺伝資源レポジトリ及び細胞・DNAレポジトリの整備について(要望)

我が国の生物遺伝資源の保存は、数多くの施設・機関によって個別に行われているが、その充実・強化と、国のレベルでの生物遺伝資源レポジトリの整備が急務となっ

てきている。他方、癌、遺伝病などの疾病の原因究明、ひいては人類の健康・福祉への貢献を目的とする細胞・DNAレポジトリの充実・整備もまた、今日の我が国にとって急務である。

このため、互いに関連はするが、異なる性格、目的をもつこれら二つのレポジトリの整備等について要望する。

1 生物遺伝資源レポジトリの整備について

生物遺伝資源レポジトリの整備拡大の必要性の増大に対処するため、政府関係機関において次の措置をとるよう要望する。

(1) 生物遺伝資源の保存は、基本的には、従来どおり、その分野の担当研究者の能力、地域性などをいかして、個別の系統保存施設で行うことが望ましいので、そのより一層の拡充を図り、そこに専任の研究者、専門技術をもつ職員を置き、予算を充実し施設の近代化を図る。

(2) 個別の系統保存施設では、遺伝子工学に基づくトランスジェニック生物、細胞融合によって作出される新種、DNAクローンや細胞及び凍結組織などを加えた新材料の保存を、社会的、法律的及び倫理的側面に配慮しつつ、積極的に推進する。

(3) 系統保存事業の永続性を保障するため、国のレベルにおいて、研究施設を附置する生物遺伝資源保存センターを設立し、DNAクローンや細胞及び凍結組織のレポジトリもこのセンターに集中する。

(4) 生物遺伝資源保存センターは、関係機関との対応、保存系統に関する情報の収集・提供、系統の導入・配布・品質管理、海外との情報交換などについて、個別の系統保存施設の活動を総合調整する。

(5) 国際的視野に立って、海外諸国との連携を深めるため、保存系統に関するデータベースを整備する。

2 細胞・DNAレポジトリの整備について

細胞・DNAレポジトリの重要性と必要性についての認識を新たにし、早急に次の対策を講ずることを、政府関係機関に要望する。

(1) 現在、各省庁傘下の各研究機関及び大学・研究所の研究室に個別に置かれているレポジトリ又はそれに類する施設に対して予算、人員、スペース等について格段の措置を講ずるべきである。

(2) それとともに、研究施設を附置した細胞・DNAレポジトリ・センターを新たに設置する。このセンターは、上記の諸施設の活動を総合調整する。

このセンターは、すべての施設と有機的に結合するネ

ネットワーク体制を構築し、必要に応じて各研究室に分散保存されている細胞・DNAを受け入れる。また、現在設置されている施設のうち運営困難なものを解消し、このセンターに移管する。

- (3) 新しく設置されるセンターには十分な予算を措置し、自主的な運営ができるようにするとともに、このセンターの運営を支えるための専門職を育成・確保する十分な方策を講ずる。また、海外との協力関係のより一層の促進を図る。

さらに、センターの運営の適正を期するため、ヒトゲノムプロジェクトの推進についての勧告に言及されているようなチェック機構を付加する。

(詳細は、日本学術会議月報11月号を参照して下さい。)

生物遺伝資源レポジトリ及び細胞・DNAレポジトリの整備について(会長談話)

(平成5年10月21日)
日本学術会議
会長 近藤次郎

昨年6月、リオデジャネイロで開催された国連環境開発会議(UNCED)で合意された生物多様性保護条約を受けて、現在、世界中で生態系、生物種や遺伝子などの保存について関心が高まっている。これは本来、人間も含めて生命界全体の命運にかかわる重要な問題である。日本学術会議としても、今後さらに引続き審議を深めるべきであると考える。

しかしながら、先進国を中心にしてこの種のプロジェクトは、国家の強力な援助の下に推進されている。将来におけるこの分野の科学の発展を考慮するとき、我が国の状況をそのままに放置すれば学問の進歩に遅れるなど由々しき事態になると憂慮するものである。

今回は「生命科学と社会的諸問題」特別委員会のまとめた提案について、総会を人文社会科学部門も含めて真剣な討議を行った上、とりあえずここに要望するものである。

アジア学術会議～科学者フォーラム～の開催について

- 1 日本学術会議は、アジア地域の各国科学者の代表を東京に招き、本年11月15日(月)から18日(木)までの4日間、三田共用会議所(東京都港区)においてアジア学術会議～科学者フォーラム～を開催しました。
- 2 このアジア学術会議～科学者フォーラム～は、地理的、歴史的、文化的に多くの共通点を持つ近隣諸国間の交流がそれぞれの国の学術の発展、ひいてはその地域全体の学術の発展にとって極めて重要であるとの認識から、アジア地域の各国における学術研究の現状について情報交換を行うとともに、アジア地域における学術研究分野での連携・協力の在り方などについて討議し、併せてアジア地域の学術研究者間の相互理解と信頼を深めることを目的として、本年度初めて開催したものです。
- 3 今回の会議には、中国、インド、インドネシア、日本、マレーシア、フィリピン、大韓民国、シンガポール、タイの9か国の学術推進機関(アカデミー等)から推薦された人文・社会科学系及び自然科学系の科学者19名が出席し(日本からは近藤次郎日本学術会議会長及び川田侃副会長が出席)、「アジア地域における学術の発展とそのための連携・協力について」をメイン・テーマとして活発な討議を行いました。
- 4 初日の15日には、鳩山内閣官房副長官(内閣総理大臣あいさつ代読)を始め、国会議員、各国大使館、関係学協会、関係省庁、関係団体などから200名を超える方々をお迎えし、開会式及び歓迎レセプションを開催しまし

た。

翌16日からの自由討議においては(17日は筑波研究学園都市視察(研究交流センター、電子技術総合研究所、農業生物資源研究所を訪問)、それぞれの国籍や専門分野を超えて、アジア地域における学術の振興という共通の目的の下、熱心な討議を行い、議長サマリーをまとめ、18日に無事閉会しました。

開催に当たり御支援・御協力いただきました方々に厚くお礼申し上げます。

(参考) アジア学術会議～科学者フォーラム～議長サマリー(仮訳)

- 1 アジア学術会議～科学者フォーラム～は、日本学術会議の主催により、アジア地域の9か国から、19人の各国の科学界を代表する科学者の参加を得て開催され、それぞれの国籍や専門分野を超えて、アジア地域における学術の振興という共通の目的の下、熱心な議論がなされた。本会合に参加した科学者は、学術の振興を通じた社会への貢献が重要であり、科学者の責務であるということを確認し、学術研究の成果は、人類の共通遺産として、文化的、社会的、経済的發展を通じて、世界の平和と人類の福祉に貢献するものであると信じる。また、そのためには、自然科学者と人文・社会科学者の密接な協力も不可欠である。
- 2 本会合に出席した科学者は、アジアの科学者による学術協力についての初の会合を提案し、開催した日本学術会議に感謝し、今後も、このような日本学術会議の努力が続けられることを期待する。
- 3 今日、世界は、環境悪化、人口爆発、資源の枯渇など人類の英知を結集して取り組まねばならない深刻な問題に直面しており、本会合での討議は、そのような問題の解決に向けての将来の国際協力に発展していくものである。
- 4 持続的開発は、アジア地域の各国にとって、21世紀に向けての共通の重要課題である。地理的、歴史的、文化的に密接な関係を持つアジア地域の科学者は、この問題に協力して取り組むことが重要である。
- 5 国際的な研究、技術・資源の共有等に当たっては、地域的な協力が効果的である。今後、そのような領域において、地域の発展のために協力を推進することが必要である。
- 6 学術の発展、社会の発展の基盤となる人材の育成は、科学者が地域的に協力して取り組むべき課題である。次世紀に向けて、人材の育成のため、アジアの科学者も協力することが必要である。
- 7 各科学者及び各国は、研究者の交流、共同研究、シンポジウム、ワークショップ等による情報の交換を促進するよう努力することが必要である。
- 8 学術協力は、対等互惠の原則に基づいて行われねばならない。
- 9 本会合の趣旨、提案を受け継ぎ、より密接な学術交流・協力の基盤となる将来の会合が開かれることを期待する。
- 10 アジア地域の科学者によるこのような会合を毎年開催すること、当面、日本学術会議がその事務局となること、アジア地域の学術動向についてのニュースレターを定期的に発行することを提案する。

「日本学術会議だより」について御意見、お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

1994年地球惑星科学関連学会合同大会 日程表

	3月20日午前	午後	3月21日午前	午後
A	シ：地球回転と変形のダイナミクス	シ：海面変動検出のストラテジ	シ：太陽・太陽風磁気圏結合系	シ：彗星衝突惑星探査
B	共通セッション マグマ	共通セッション マグマ	共通セッション マグマ	共通セッション マグマ
C	地震 津波	共：日本海東縁地震	震：歴史地震 地震活動	震：地震活動 地震一般
D	共通セッション テクトニクス	共通セッション テクトニクス	共通セッション テクトニクス	測地 測地一般
E	共：不均質構造のイメージング	共：不均質構造のイメージング	共：地球惑星内部の物性と進化	共：地球惑星内部の物性と進化
F	震：理論・波動・マグニチュード	震：発震機構・震源過程	震：地震災害・地盤震動	震：地震災害・地盤震動
G	火山 火山学一般		火：世界の火山 東日本の火山	火山 火山の物理
H	SGEPSS 大気圏物理学	電：大気圏化学・放射	SGEPSS 惑星大気	共通セッション インターリッジ
I		SGEPSS 太陽圏	電：固体惑星 惑：彗星物理学	惑：宇宙鉱物学と宇宙化学
J	SGEPSS 電離圏	電：磁気圏(構造・波動)	電：オーロラ 磁気圏電離圏結合	電：ULF波動 磁気圏電離圏結合
Poster	共通セッション	火山 共通セッション	共通セッション	地震 共通セッション

	3月22日午前	午後	3月23日午前	午後
A	シ：地震情報の早期伝達	特別講演 総会	シ：物質の循環と動的過程	シンポジウム リズム
B	共通セッション マグマ		火山 西日本の火山	共通セッション 雲仙普賢岳
C	震：熱学・地球内部構造		共：地震発生過程と発生場	共：地震発生過程と発生場
D	測地 GPS		共通セッション 地殻変動	共通セッション 地殻変動
E	共：陸上学位 ボーリング		共：陸上学位 ボーリング	共通セッション 重力
F	震：地震予知・地球化学		地震 強震動	地震 強震動
G	火山 東日本火山		地化 地球化学	化：招待講演 地球化学
H	共通セッション インターリッジ		惑星 惑星物理学	惑：ガスと塵から惑星へ
I	惑：惑星探査 共：月の起源と進化		電：岩石磁気・古地磁気	電：地球内部 電磁気学
J			電：太陽風 磁気圏相互作用	SGEPSS 磁気圏
Poster	SGEPSS 測地・共通	測地 共通セッション	地化 共通セッション	惑星 共通セッション